

目次 RESEARCH IN EXERCISE EPIDEMIOLOGY Vol.14 No.2

巻頭言 運動疫学研究の範囲を考える

川久保 清 (共立女子大学家政学部)

総説 Step by Step: Accumulated Knowledge and Future Directions
of Step-defined Ambulatory Activity107

John M. Schuna, Jr., et al.

(Walking Behavior Laboratory, Pennington Biomedical Research Center)

The Built Environment and Physical Activity Behaviour Change:
New Directions for Research?118

Takemi Sugiyama

(Behavioural Epidemiology Laboratory, Baker IDI Heart and Diabetes Institute)

高齢者のテーラード型転倒予防.....125

山田 実 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻)

原著 校庭の芝生化による児童の休み時間における身体活動の変化.....135

佐藤 舞 (早稲田大学大学院スポーツ科学研究科) 他

3軸加速度計 Active Style Pro を用いた身体活動量評価において
epoch length が解析結果に及ぼす影響.....143

中田 由夫 (筑波大学医学医療系) 他

連載 日本の運動疫学コホート (3) 「大阪ヘルスサーベイ」151

岡田 邦夫 (大阪ガス株式会社人事部大阪ガスグループ健康開発センター) 他

インフォメーション

運動疫学研究会会員・賛助会員募集のご案内.....161

「運動疫学研究」投稿規定.....162

編集後記 山根 基